

# 中学校（第3学年）「総合的な学習の時間」

## ○授業のねらい

- ・思春期の心の変化や性への関心、不安や悩み等に対する向き合い方について理解を深める。
- ・生命の尊さを学び、生命を大切に考える考えや、自分や相手を尊重する態度を身に付ける。

## ○指導形態（工夫したこと）

- ・生徒の発達の段階に応じた指導となるよう、学年ごとに内容を設定し、全学年で「いのちの授業」を実施した。
- ・保健体育科、保健分野「健康な生活と疾病の予防（オ）感染症の予防」と関連させて指導した。
- ・道徳科の内容項目「生命の尊さ」と関連させて指導した。
- ・生徒の実態を把握するため、事前にアンケートを実施し、回答状況を基に外部講師の助産師と講話内容について検討した。

## 授業の内容



「講師による講話の様子」

## <実際の授業で工夫したこと>

### 導入

- ・前年度までの学習内容を振り返るとともに、3年間を通して学習する「いのちの授業」の内容について確認した。
- ・生徒と授業者が第3学年の「いのちの授業『命を大切にするには』』についての指導計画を共有し、学習の見通しをもたせた。

### 展開

- ・講師の説明だけではなく、講師と生徒、生徒と生徒が対話する場面を設定した。

### 終末

- ・生徒が、当事者意識をもって学び、多様な考えに触れることができるよう、本時の学習を基に探究課題を設定し、レポートを作成・交流した。

## <児童生徒や指導した教員等の感想>

- ・無意識のうちに行っている性差別について理解することが、差別の解消につながると思った。
- ・ジェンダーバイアスは、個人の能力を制限してしまう差別につながっている。
- ・自分を大切にすることは、欠点や得意なことを含めて自分を知ることだと思った。自分を大切にすることが「命を大切にすること」につながっている。
- ・自分に対する考え方を变えることで人間関係の悩みがなくなり、相手と対等に関わっていける。
- ・就労等に関わるジェンダーバイアスについての気付きにより、課題意識が高まった。
- ・性差別について学びを深めることで、相手を大切にすることが自分を大切にすることにつながっていることに気付くことができた。
- ・3年間の継続した「いのちの授業」の取組により、人権意識の高まりが見られた。

## 授業実施の成果と今後に向けて

### ○成果

- ・身近な性差別の現状について理解することにより、生徒が当事者意識をもちながら課題を解決しようとする姿が見られた。
- ・「命を大切にすること」に真摯に向き合い、生徒一人一人の考えを深めることができた。
- ・生徒が自己選択した探究課題に主体的に取り組むことができた。

### ○今後に向けて

- ・外部講師による講話を計画的、継続的に実施し、生徒一人一人に必要感のある探究課題を設定させる。
- ・教育計画を見直し、「生命（いのち）の安全教育」の更なる充実を図る。